

名前から見る古代貴族の家族観

北京外国語大学 北京日本学研究センター 講師 潘蕾

人の名前は元々群体の中から個体を識別するために、個体専有の符号として作り出されたものである。しかし、人類の発展に伴って、人名の量・質がともに変化し、次第に識別以上の付加価値が求められるようになった。付加価値の追求は人類の歴史文化の産物であり、この意味では、日本人の名前は日本の歴史文化を映し出す「鏡」ともなっていると言えよう。本研究では、飛鳥時代から院政時代までの貴族の名前（＝個人名）にスポットを当て、名前に映し出される彼らの家族観の一端を浮き彫りにした。

古代日本人の名前についての本格的な研究が江戸中期に始められ、その先駆者的役割を果たしたのは国学者の本居宣長である。宣長以来、栗田寛（1889）、穂積陳重（1926）、渡辺三男（1958）、角田文衛（1980）、奥富敬之（1999）、星田晋五（2002）などの代表的な研究が現れたが、業績が散発的に出ており、最近の研究も少ない状況にあると言わざるをえない。したがって、本研究では、先行研究の成果を最大限に活用するかたわら、できる限り自分で原典資料にあたって名前の例を集めるようにした。なお、名前の実例が記載されている文献は主に①主に歴史的事実を記述したもの、②歴史的事実を題材にして作者の創作をも加えたもの、③ほとんど作者の創作によるもの、の三種類がある。ここでは、実録の中の名前記述の解説を軸としながら、必要に応じて史実を題材とした物語の中の名前記述とも比較をし、古代貴族の名前を考察したのである。なお、本研究の対象は古代貴族の個人名であるが、一言で個人名と言っても、飛鳥時代から院政時代までの貴族の個人名には幼名、実名、通称、字、号、諡など様々な種類があり、ここでは、その家族観が現れている実名と通称とを考察の対象としている。

本文は「古代日本貴族の名前」と「名前から見る古代貴族の家族観」という二つの部分からなっている。第一の部分では、筆者は実名敬避の制度化、系字命名法の導入、系字命名法の和風化、系字から祖名継承へ、祖名継承から通字へ、縁の地に因んだ通称の増加、女性の祖名継承の開始、官職に因んだ通称の増加、通称から家名へといった飛鳥時代から平安時代末期までの日本貴族の名前に見られるさまざまな現象を具体的に考察した。そして、第二の部分では、第一の部分で考察した諸現象を手がかりに、古代日本貴族の家族観の歴史変遷の一端を探ってみたのである。

参考文献

- ・黒板勝美・国史大系編修会／編『律・令義解』国史大系 22、吉川弘文館、1966
- ・黒板勝美・国史大系編修会／編『類聚三代格・弘仁格抄』国史大系 25、吉川弘文館、1965
- ・青木和夫・他／校注『続日本紀』（三）新日本古典文学大系 14、岩波書店、1992
- ・黒板勝美・国史大系編修会／編『尊卑分脈』（1～4）、国史大系 58～60（下）、吉川弘文館、1966～1967
- ・黒板勝美・国史大系編修会／編『公卿補任』（1～5）国史大系 53～57、吉川弘文館、1964～1965
- ・穂積陳重『実名敬避俗研究』刀江書院、1926
- ・渡辺三男『日本人の名まえ』北辰堂、1958
- ・角田文衛『日本の女性名』（上）教育社、1980
- ・奥富敬之『日本人の名前の歴史』新人物往来社、1999
- ・上野和男・森謙二／編『名前と社会——名付けの家族史』早稲田大学出版部、1999
- ・星田晋五『名前の研究』近代文芸社、2002
- ・橋本義彦『平安貴族社会の研究』吉川弘文館、1976
- ・溝口睦子『古代氏族の系譜』吉川弘文館、1987
- ・高群逸枝『招婿婚の研究』1・2（橋本憲三／編『高群逸枝全集』第 2・3 巻、理論社、1966 所収）
- ・服藤早苗『家成立史の研究——祖先祭祀・女・子ども』校倉書房、1991
- ・吉海正人『平安朝の乳母達——『源氏物語』への階梯』世界思想社、1995
- ・成清弘和『日本古代の家族・親族——中国との比較を中心として』岩田書院、2001
- ・飯沼賢司『「職」と家の成立』（『歴史学研究』五三四、1984）
- ・官文娜「日本古代社会における王位継承と血縁集団の構造——中国との比較において」（国際日本文化研究センター／編『日本研究』28、2004）
- ・西野悠紀子「律令制下の氏族と近親婚」（女性史総合研究会／編『日本女性史』1、東京大学出版会、1982）
- ・関口祐子「日本古代の婚姻形態について——その研究史の検討」（歴史科学協議会／編『歴史評論』311、1976）
- ・久留島典子「婚姻と女性の財産権」（義江明子／編『婚姻と家族・親族』日本家族史論集 8、吉川弘文館、2002）
- ・明石一紀「古代・中世の家族と親族」（大日方純夫／編『家族史の展望』日本家族史論集 2、吉川弘文館、2002）
- ・〔後晋〕劉昫等撰『舊唐書』（全 16 冊）中華書局、1975
- ・〔宋〕欧陽修・宋祁撰『新唐書』（全 20 冊）中華書局、1975
- ・蕭遥天『中国人名的研究』国際文化出版公司、1987
- ・納日碧力戈『姓名』中央民族大学出版社、2000
- ・王鶴鳴等／主編『中国家譜研究』上海古籍出版社、1999
- ・王泉根『中国人名文化』團結出版社、2000
- ・完顏紹元『中国姓名文化』上海古籍出版社、2001
- ・何曉明『姓名与中国文化』人民出版社、2001
- ・王玉波『中国古代的家』商務印書館国際有限公司、1995
- ・顧鑒塘・顧鳴塘『中国歴代婚姻与家庭』商務印書館、1996
- ・李卓『中日家族制度比較研究』人民出版社、2004